

## 弘前大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

本院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない患者さんもしくは患者さんの代理人の方は、下記の連絡先までお申し出ください。

1. 研究課題名	カテーテルアブレーションの有効性及び安全性に関する疫学研究: 青森カテーテルアブレーションデータベース研究 (The Aomori Catheter Ablation Registry)		
2. 対象患者	<p>【前向き疫学研究用カテーテルアブレーションデータベース】 ◆弘前大学医学部附属病院、または青森県立中央病院に入院し、カテーテルアブレーション治療を実施された患者様。 (2030年3月31日実施までの10年間で5,000例を登録予定)</p> <p>【後向き疫学研究用カテーテルアブレーションデータベース】 ◆現在実施されているアブレーションシステムが使用可能となった2012年10月から、倫理委員会承認日までに弘前大学医学部附属病院、または青森県立中央病院に入院し、カテーテルアブレーション治療を実施された患者様。 (約3000例を登録予定)</p>		
3. 対象となる期間	2012年10月 1日 ~ 2030年3月31日		
4. 実施診療科等	弘前大学医学部附属病院 循環器内科、腎臓内科		
5. 研究責任者	氏名	木村 正臣	所属 大学院医学研究科 不整脈先進治療学講座
6. 共同研究機関 (共同研究機関研究責任者)	青森県立中央病院 循環器科 副部長 榎引 基		
7. 研究の意義	カテーテルアブレーション施術後の合併症・心血管イベント・不整脈再発率や予後などに関わる因子を解析し、現在のアブレーション治療の精度をより高めることです。		
8. 研究の目的	弘前大学循環器内科、腎臓内科または青森県立中央病院循環器科において、過去にカテーテルアブレーションを実施した患者さんのデータを統計した後向き疫学研究用カテーテルアブレーションデータベースと、今後新たにアブレーション治療を実施する患者さんの治療データを分担して取得し、解析していく前向き疫学研究用データベースを構築します。様々な不整脈に対するカテーテルアブレーションの成功率や予後の経過、急性期や慢性期の合併症などについてを共同で解析し、アブレーションの治療成績の向上や予後改善を目指します。		
9. 研究の方法 (使用・提供する資料等および外部に提供する場合はの方法等)	<p>【実施方法】 ※この研究は、下記の方法で弘前大学循環器内科、腎臓内科および青森県立中央病院循環器科で分担して実施します。</p> <p>◆患者様の背景・アブレーション術時調査・術後の合併症・心血管イベント・不整脈再発率や予後などについてデータを収集し、解析します。</p>		

10. 個人情報の保護	この研究を実施するうえで患者様の情報を取り扱う際は、患者様の個人情報とは無関係の番号(研究用の認識番号)を付けて対応表を作成します。これによって患者様の情報を完全に匿名化し、個人情報の保護に十分に配慮します。認識番号の対応表は、各施設の個人情報管理者が厳重に管理します。また、研究の結果を公表する際は、患者様を特定できる情報を含むことはありません。			
11. 利益相反に関する状況	この研究は、通常の診療内で行う観察研究ですので、特に資金は必要とされておりません。また、この研究に関連する企業等はなく、当講座の研究グループによって公正に実施されます。			
12. 連絡先	弘前大学大学院 医学研究科 不整脈先進治療学講座			
	電話	0172-39-5144	FAX	0172-39-5353